



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222) 7207番

93.6.21 No. 3814

第三〇回定期委員会成功勝ちとる

原点の闘いがゴジあける展望



意気軒高と登場すべき舞台が到来した!

第三〇回定期委員会は、春季三波ストライキを軸とした闘いを総括し、七月ダイ改―今秋ダイ改闘争、さらには九三年政治決戦の勝利に向け、六月一六日、千葉市民会館において開催された。

議長に大野委員(千葉転)を選出した後、冒頭あいさつに立った中野委員長は、「三月ダイ改―九三春闘勝利の闘いは、強制配転者の原職奪還を軸に、又、現今の労働運動の状況の中で、春闘を原点から作りあげるものとしてあった。JR体制により要求自体は前進を見なかつたが、闘いの前進として、①西日本においてJR西労から分離・独立し、米子で新組合が結成されたことは、動労の再建への大きな前進であり、激動への引きがね―東日本への波及―勢力の糾合へと進む道筋がはつきりとしてきた。②運転士登用差別事件

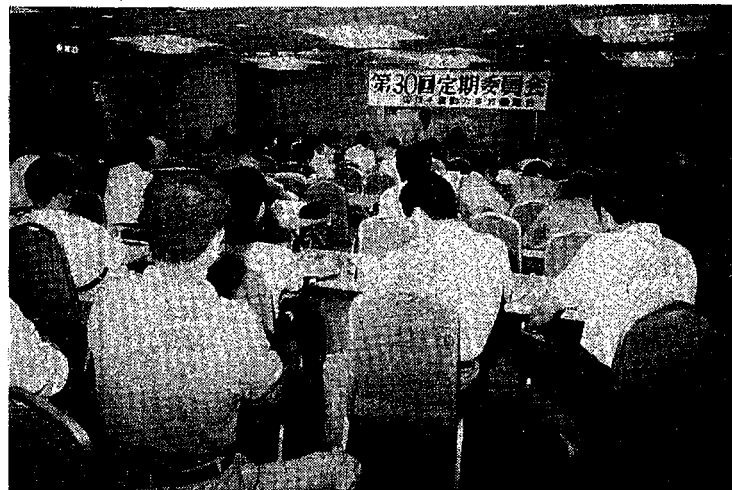
が千葉地労委において、一点の曖昧さもなく組合側の主張を全面的に認めた救済命令を獲得した―ことを確認できる。社会的ルールすら守らず、違法行為を平然と行なうJRに対し、断固とした闘いを対置しなければならぬ。今日の政治改革を巡る確執は、場合によっては解散―総選挙へと進むだろう。(六月一九日、内閣不信任案が可決され、衆議院は解散となった)この中に、戦後の自民党支配の大変な危機的状況を見てとることができる。最大のポイントとは、働くものの立場に立つ政党政を壊滅―掃していく攻撃だということだ。そして民衆の先頭に立たなければならぬ労働組合が、連合によつて是認していく勢力へと転落させられている。相手の側から変えていくのか、働くものの立場から変えていくのかというところが問われている。その意味でも

動労千葉と苦楽を共にしてきた仲間が、意気軒高と登場していくようにしなければならぬ。山積した諸問題を解決していくために、あらゆる困難を克服していこうではないか」と訴えた。

現場の声―熱気あふれる討論から

闘いへの意思統一が図られた!

経過報告等一括提起後、質疑に入り、(1)貨物八千人体制―動乗勤改悪―基地統廃合等の攻撃に対し、ストライキを含む組織の総力を上げた闘いを―五



闘う動労の真の再建を担う!

五才以降の出向問題は、同時に六〇才定年まで現場で働ける労働条件確立が急務であることを示している。保安面では、新金線の乗務員無線がよく聞かない。強く改善を求めたい。又、天台の社宅の移転条件等についてどうなっているのか?新たな制度―運転事故等に伴う処分の扱いとして、一定期間事故防止に勤めた結果、無事故・安全運行に寄与した場合、当該期間経過後の昇給時に減号俸分を昇給させる(事故回復補償)制度が、九三年四月一日以降行なわれるようになったが、それ以前の補償を要求すべきだ。(新小岩)
(2)内勤の後補充だが、この間現場では内部登用をしてきた経緯がある。今回一方的に、しかも助勤で送り込まれてきた。これからは助役試験合格者でなければ登用しないという話があるなど、条件がクルクル変わっている。

高齢者対策としての内外勤という位置を、再度確立すべきだ。又、現車訓練(七月予定)について、予備が二人しかいないというギリギリの要員状況の中で、年休抑制・休日出勤が取り沙汰されている。訓練の在り方も含め改善を要求したい。出向問題について、出向協議会がこれからの相談―交渉―解決の場になっていくようにしてもらいたい。(木更津)

(3)、総武快速線全線にATSPが導入されると、信号機の数が増える。安全確保の面からの(Pが付いていけば安全なのか含め)闘いを強化しなければならぬ。鹿島線の訓練ダイヤ―食事もとれないようなスジの見直しを―又、交番変更について各区によって対応が違う。会社側に強く改善を求めべきだ。(千葉転・乗務員分科会)

(4)、出向先の労働条件・環境等が、真

摺に討論される時期に来ている。五五才になって捨てられたという感情を突破するためにも、出向協議会の持つ意味は図りなく大きい。(事務分科会)

(5)、強制配転からすでに近い人でも六年目に入った―「塩づけ」の長期化は、約束の反故の繰り返しであった。予科生登用差別事件の勝利―今秋ダイ改闘争にこそ最後の決着を構えて闘うべきだ。(総武)

(6)、五月一三日、第一七回臨時大会を開催し、支部破壊攻撃を粉碎し、何としても津田沼支部を守っていく闘い―地労委闘争に決起していく。又、保安面として、千葉駅一・二番線の進路表示が見えない。早急に改善を求めたい。(津田沼)

等々の熱気あふれる討論が行なわれ、中野委員長の総括答弁を含め、意思統一が図られた。

解雇者―強制配転者―東日本・貨物の全組合員が共有する闘い 今秋ダイ改闘争こそ勝負所!

われわれはこの間の闘いが、ひとつひとつの要求の実現にこそ至っていないが、確実に「JR体制」に打撃を与え、大いなる展望をコジ開けていること。解雇者―強制配転者―東日本・貨物の全組合員が共通の認識を共有し、それを原点として闘ってきたがゆえに

今日がある。
間近に迫ったJR総連の瓦解―崩壊する「分割・民営化」体制に、いよいよ断を下す時来たり―
今秋ダイ改闘争を最大の勝負所とし、全ての力を結集していこう!

JR貨物は夏季手当会社間格差を撤回しろ!

日貨労の即日裏切り

妥結を徹底糾弾する!

JR貨物会社は、六月一七日、九三夏季手当についてまたも会社間格差Ⅱ二・五ヶ月の回答を行なってきた。
この間日刊において明らかにしてきたように、貨物会社はことさらに「経営の悪化」「不況の長期化」を理由とし、「この四・五月の落ち込み」を大きく取り上げ、「格差止むなし」の風潮を作りあげてきた。しかしながら何度でも言うが、起因は全て「分割・民営化」体制の矛盾にあることは明白なものであり、労働者に格差として転嫁する姿勢こそ断罪されるべきものだ。
しかるにこの提案を、即日裏切り妥結した日貨労の存在の打倒なくして、貨物の労働者の未来は拓けない。全ての労働条件の獲得のために、今こそ動輪旗の下に結集せよ!

夏季手当について(提案) 東日本・貨物	
東日本	一、支給月数 二・六ヶ月
二、支給日	六月三〇日以降準備でき次第
貨物	一、支給月数 二・五ヶ月
二、支給日	七月五日以降準備でき次第